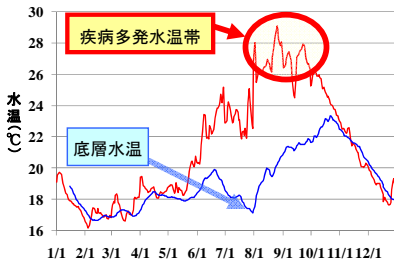
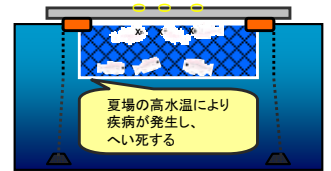


# 研究テーマ①「高度管理型魚類養殖技術の研究開発」

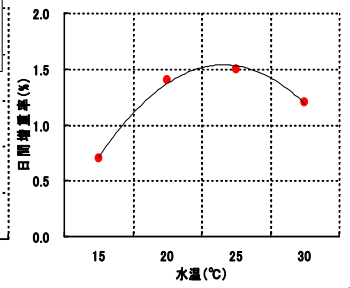
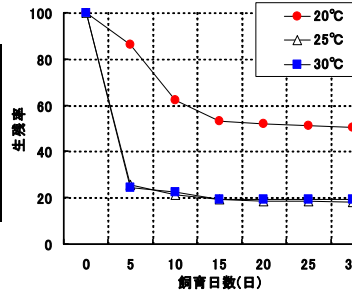
## 現状と課題

- ◇本来中底層に生息する高級魚(ハタ類、イシガキダイ)を表層で養殖するため、夏場の水温上昇に伴いウイルス疾病でのへい死が顕著
- ◇品質が保証された無投薬型の養殖技術の確立 等

通常養殖



魚種	マハタ	イシガキダイ
生育水温帯	18°C~28°C	14°C~28°C
対象疾病	VNNウイルス	イリドウイルス
疾病多発水温帯	24°C~28°C	24°C~28°C



## 研究開発目標

品質と生産流通管理能力の向上を目指す「高度管理型魚類養殖技術」を確立

### 期待される効果

- ◇ウイルス疾病の防止や無投薬化
- ◇適正環境下での飼育歩留率や肉質の向上
- ◇市場動向をふまえた生産管理と高いトレーサビリティの実現 等

安全・安心な養殖システム  
= 儲かる養殖

## 研究開発項目

### ◇水深可変型養殖生産システムの研究開発

- ・水中での自発摂餌方法・餌の構造や成分構成
- ・水中カメラ等による魚の状態把握方法と生態分析
- ・水温等の養殖環境と疾病の発生率、生育状態との関連づけ 等

### ◇生産流通情報管理システムの研究開発

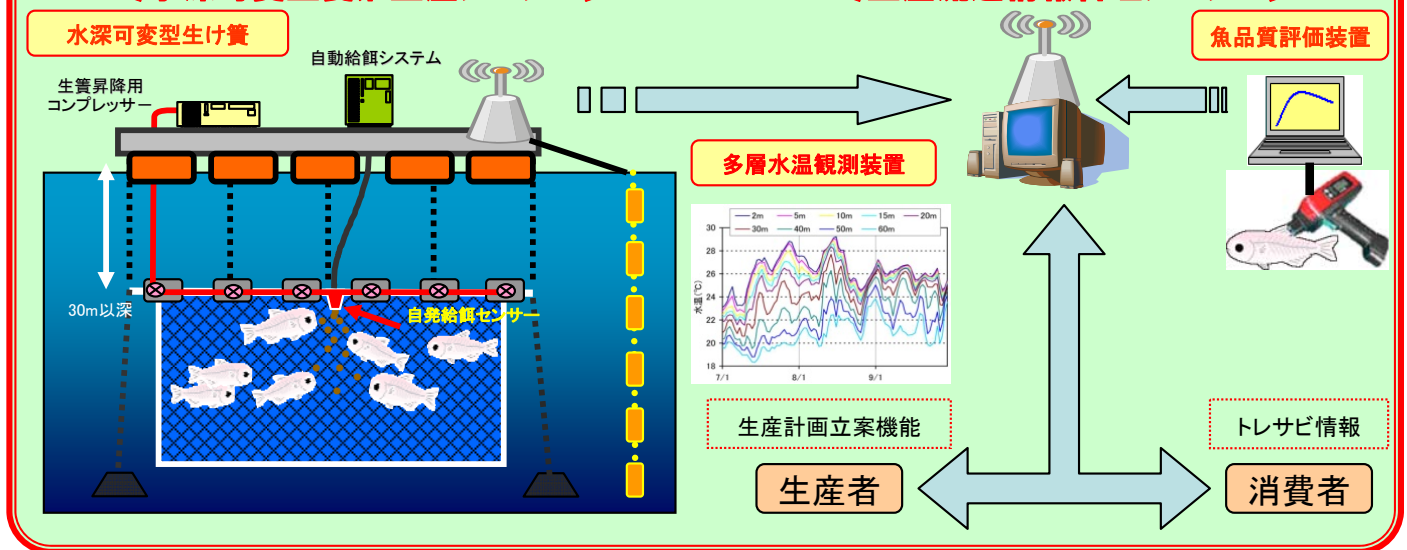
- ・各種情報の知識データベース化、品質評価技術、生産計画立案機能の構築 等

### 〔南予地域のメリット〕

- ・リアス式海岸 = 大深度内湾漁場 (水深の有効利用が可能)

## 〔水深可変型養殖生産システム〕

## 〔生産流通情報管理システム〕



## 活用する技術シーズ

### 〔大学のシーズ〕

- ・多層水温データ蓄積による漁場特性把握
- ・水中における餌の形状別拡散・環境負荷、自発摂餌技術、摂餌リズムに関する知見
- ・各種トレーサビリティシステムの構築

### 〔公設試のシーズ〕

- ・ハタ類の最適成長水温やウイルス疾病に関する知見
- ・配合飼料の組成と成長との関係に関する知見
- ・近赤外による肉質評価技術

### 〔地域企業のシーズ〕

- ・マダイ養殖で類似の取り組み実績あり
- ※給餌、魚の健康管理方法等が未解決